

水野良平さんを偲んで

鏑木 政岐

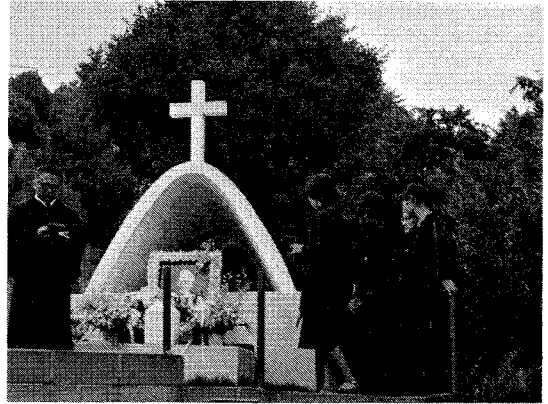
水野さんが急性心不全で逝去されたとの電話を受けたとき、私は一瞬呆然とした。誠に痛惜の念に堪えず、茲に謹んで哀悼の意を表し上げたい。

私が大正15年4月に東京天文台に就職したとき、配属された研究室が水野さんと同じで、水野さんは専ら報時観測を担当し、私は緯度観測や子午環観測を担当したが、毎日机をならべてそれぞれの業務に従事した思い出が今でも記憶に残っている。

水野さんは中学時代に洗礼を受けられた敬虔なクリスチャンで、日曜日ごとに教会の礼拝に出席されるほかに、長老として教会の用務にも尽力されておられたようであった。ときたま、午後から教会の用務で出かけられた留守中に、折悪しく観測部長の橋元先生が“水野君はいないか”と行って顔を出されることがあった。そんなとき、私どもは“先ほどまでそこに居られたが”と行って、如何にも中座されたかのように答えたことが再三あった。

また水野さんは、父君や兄上が海軍の軍人であったせいか、水泳では達人級の腕前をもっておられ、昼休み時間や勤務時間後にはグラウンドに出て、みんなと一緒に野球やテニスなどのスポーツを楽しんでおられた。したがって健康にも恵まれ、そのうえ誠実明朗な性格の持ち主であり、いつも笑顔で人に接しておられたので、職員の間では“良平さん”の呼称で敬愛されていた。

私は昭和5年に結婚してはじめて世帯をもった時の官舎が、たまたま水野さんのお隣りであった。こんな関係で、その後水野さんの家族とは特に親しく交際させて戴いた。したがって、誠さん・栄さん・妙さんの御子様の面影が今でも眼に残っている。また水野さんは、私財を投じて敷地内に幼稚園を設立し、専任の保母さんに来てもらって、近所の幼児教育に当たられた。この点から見ても、水野さんのお人柄の良さが偲ばれるのである。昭和10年4月、私は9年間勤務した三鷹の天文台を離れて、東大天文学教室へ転出することになった。そのため



に水野さんとお会いする頻度も極めて少なくなった。

ところで、昭和32年4月開館を目標として、東急文化会館8階に天文博物館五島プラネタリウムを建設することとなり、その準備が着々と進められてきた。当時その企画に参加していた科学博物館の村山定男氏と私とが相談の結果、解説の中心となる学芸課長に水野さん(数年前に東京天文台を退職され、当時横須賀学院小学校主事)を迎えようではないかと意見が一致した。幸いにも水野さんの内諾が得られたので、昭和31年12月に学芸課長に就任された。その後は水野さんも参加して解説員の選考に着手し、小林悦子・大谷豊和の両氏をはじめ、そのほか数名の解説員を迎えて予定通りの開館の運びに至ったのである。

五島プラネタリウムは、その後館員の協力一致により順調に発展して、昭和52年4月に20周年を迎えた。水野さんは、高齢と健康上の理由によって昭和47年1月学芸課長を退職され、その後2カ年間は嘱託として勤務された。昭和41年1月以後は評議員、学芸委員、星の会委員として貢献されて現在に至ったのである。

今や故人と私どもとは幽明界を異にする結果となった。茲に謹んで故人の御冥福を祈る次第である。

水野良平氏略歴

1899. 10. 9 横須賀市上町の海軍官舎にて出生
1917. 3. 18 受洗
1923. 8. 29 東京天文台就任(28年間勤務し、報時課長で退任)
1947. 7. 6 横須賀学院小学校主事となる
1956. 12. 1 東急KKに移り、57.4.1よりプラネタリウムの学芸課長となる

1972. 1. 10 プラネタリウムを引退し、嘱託となる
1974. 1. 10 退職
1977. 4. 21 和泉短大教授になる
1978. 8. 22 午後8時45分、天に召される。

キリスト教児童文化協会の会員としても活躍され、星に関する著書のほか、特に光川ひさしのペンネームで出版された創作童話「宇宙旅行」は文部省推薦となった。